



2016年7月15日 発行

2016年夏号

< 第 35 号 >

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田道樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 info@works-union.org http://works-union.org/taylor.html

がんばってます！

作業は今は45分間だけやっています。今頃は、みんなといっしょのじかんにやりたいです。

作業が終わったらDVDを見ています。さいきん見てるものは、「どしいえとまつ」と「スマレとスマカ」と「かそうけんの女」です。

たかはしるいこさんと、かいものに行きたいです。今ごうえたい花はバラとチューリップです。

私は、泊まりはたのしいです。今回からカラオケに行けるからです。DVDもかりれるからです。

今頃は、一人ぐらしをしたいです。私は家が大好きだけど、でも母がいなくなったら一人ぐらしすることになるからです。泊まりをがんばったら、母となかよくできるからです。

泊まりは、はじめはきんちようしたけど、今はなれました。

河本 咲

生活介護事業所「匠」働くことの意義

ワークスユニオンの日中支援は、当初より「働くこと」を中心に支援を組み立てており「就労継続支援B型事業」としての展開を行なっていました。平成24年度「生活介護事業」を始めるにあたり、高齢期を迎える方や仕事に向き合えない方に日中支援のプログラムとして何を提供すべきなのかについて正直悩みました。その試行錯誤の様子を現場の担当者より今回報告してもらいます。

私は、「匠」の立ち上げから 約3年半担当しました。当時「匠」は、就労継続支援B型から生活介護への移行ということで、今までよりも少しゆったりとした過ごし方を提供しようと考えていました。

仕事を残しながら、他に利用者さんが充実できる活動は何か、高齢になっても出来る活動は何かなどを考えながら支援していました。同時に講師による活動や、他施設との交流など外部との関わりも増やしていきました。

全体の雰囲気としては、色々な活動や交流を皆で楽しんで過ごしていましたし、創作が好きになり、一日創作をして過ごす人も出てきました。

だと思えます。その思いを尊重し、昨年度から一年を通して仕事をメインに提供しましたが、やはり安定して過ごしている利用者さんが多かったですし、仕事で安定した事で、その他の活動への参加意欲も高まっていたと思えます。

が求められると思えます。(横田)

今後高齢期を迎える利用者さんがいる生活介護事業所として、利用者さんが思う「はたらく」ということの意味を考えていかなければなりません。

作ってみんなに食べてもらうこと、掃除をすることなど、匠の利用者さんに喜んでもらえることがはたらくことなどそれぞれ考えていることも違うと思えます。

これからますます身体的にも精神的にも匠で業者の作業を行うことや色々な活動に参加することが難しくなっていく利用者さんが増えてくると思えます。そういった中でひとりひとりがもつ「はたらく」という思いに対して、私たちはその方々の思いに添えていく支援を大切にしていきたいと考えています。

立ち上げ当初から、利用者さんにとって仕事以外に生きがいになるような活動を見つけてようと取り組んできたことも必要な支援だと思えますが、高齢になっても仕事を生きがいにして過ごせるよう支援することも同時に大切であると、利用者さんから学びました。

現在匠では業者と取引をして、その作業代をいただいている皆さんの工賃になっています。働くことが好きな利用者さんであれば、作業をすることに對して消極的になっている利用者さんの中にはおられ、作業がなければ欠勤される利用者さんもいらっしゃいます。

業者の作業が好きな利用者さんにはその作業が継続できるように、運動が好きな方には運動する機会の提供などをしたいと、利用者さんそれぞれが匠で自分の好きなことをし、好きなように過ごして、自分らしさを発揮できる場所にしていきたいと思っています。

今後のその視点を念頭に置きながら、利用者さんのニーズの変化も見逃さない支援

匠での過ごし方は人それぞれに対しては工賃をもらうことがはたらくこと、自分の好きなことをすること、お菓子を

そのためにも、匠として彼らの希望に応えられるような環境をつくっていききたいと思えます。(川口)

法人体制の拡充

法人開設当時十人程だった職員集団も常勤職員だけで五十名を越え、非常勤職員まで加えると百名近い陣容となった。

陣容に見合った運営組織を構築するべきと判断し、本年度より運営組織の拡充を図り、日中支援部、生活支援部、総務部の三部体制とし、部長を配置した。それぞれの部署が協力し合い補完し合いながら、よりよい支援の構築に向けて努力していきたい。

ユニオンの将来設計を考えると、日中支援、生活支援の両面で、壮年期の皆さんと、高齢期を迎えた皆さんや障害の重い皆さんの支援部門を分け五部体制とし、一人ひとりの利用者さんによりきめ細かい支援が提供できる体制を整えなければならぬ。

さらに、地域に根ざしたより開かれた「事業体」としての歩みも進めていこうと考えている。

(南石)

【日中支援部】

部長 坂田 博子

達成するのは、実はそう簡単ではありません。

ワークスユニオンの日中支援事業の一番の目標は、「いつまでも利用者さんがニコニコと毎日通える事業所」作りです。言葉にすると「そんな当たり前のこと？」と言われるかも知れませんが、このことを利用者さん全員に

す。人間関係の調節は苦手な利用者さんがストレスを感じないように、個別に関わりながら環境調整するのは、職員にとって何よりも大切なことです。

さらに、ユニオンのこれらの課題となる利用者さんの高齢化、より細やかな対応が必要な方、働くことに向き合うことが難しい利用者さんが増える中、私たち職員は、それぞれの心身の状態に合わせた支援を構築する必要があると

そのためには、それぞれの職員が支援力をつけ、チームとして利用者さん一人ひとりに関わり、良い支援を模索していきたいと思えます。

【生活支援部】

部長 湯川 隆司

◆ユニオン4つの生活拠点(メゾン、サンリット、グラインド、パーク)で、そのらしい暮らしの実現に向けて、生活支援での、今年の抱負

は次の通りです。

◆野球は一人では出来ません。チームワークが重要です。支援も同じと考えています。利用者さんの支援を通じて、職員が存在している意味と、本来あるべき姿の支援を常に確認できる機会であると考え、支援することでも多くの気づきと学びとなるように、チーム支援で取り組んでいきます。

◆これまで、生活拠点ごとに自主防災を実施してきました。今年は、各拠点の地域ごとで取り組んでいる防災活動へ参加し、利用者さんと職員が一緒に、地域防災の意識を高めていきたいと考えています。また、そこで出会う方々との関わりを通じて、更にその地域へ溶け込んでいくよう取り組みを進めていきます。

【※用和為貴・ようわいき】の気持ちで、人と人が和合することを大切にしたいと考えています。

◆聖徳太子が定めたとき「十七条憲法」の第一条

にある語です。「和を用て費しと為す」と訓読されています。

【総務部】

部長 岩本 強

今年度より一部署として総務部がスタートしました。社会福祉法人としてはあまり目立たない総務の仕事ですが、法人として欠かすことのできない大切な運営部分を担っています。支援現場の各職員(支援員)が快く働けるよう、魅力ある職場となるようお互い協力しながら環境を整備し、進めていきたいと思えます。

これまでとは違い、直接利用者の皆さんと関わることは少なくはなり、少し寂しさも感じますが、今後の経営状況について展望を整理し、事業展開を行う上で大切な資金面での管理や、法人を財務の視点で支えられるよう、これから大きく変化していく法人の一つの核として全体をサポートしていければと思います。



員・利用者全員に、「義援金」を要請したところ、たくさん利用者がさんたちが、少ない「お小遣い」の中から、五百円、千円と「義援金」を拠出してくれました。

熊本県を中心に、九州で又大地震が起き、甚大な被害が発生しました。この地震で亡くなられた方々のご冥福と、被災者の方々が一日も早く元の日常生活に戻れますことをお祈りします。

被災された方々の、避難所での不自由な生活を考えると、心が痛みます。

障害をお持ちの方も多くの方が被災され、中には「避難所」の生活になじめず、「避難所」の近くで車中泊を余儀なくされている状況などをお聞きすると、ご本人の感じられているストレスはいかばかりのものかと思えます。

私たちのせめてもの気持ちを「義援金」の形で送ることを決定し、保護者・職

利用者さんたちの、「困っている人を助けてあげたい。」との気持ちは、私にとってはとても嬉しく感じられました。

利用者さんたちの気持ちももった「義援金」を、急ぎ熊本に送らせていただきました。

私たちの住む大阪にもいつ何時大地震が訪れるかわからない。一人ひとりの利用者と共に、「自分の命を守るための行動」について考えることも大切だ。

それと同時に、人の命ははかないもので、死が突然訪れてしまうこともあることを考えると、その瞬間に「いい人生だった。」と思える様に一人ひとりの「充実した今日の生活」を最優先に支援したい。

職員紹介

嶋津 京子 (ま) サンリット

幼少の頃からピアノと習字を習い、高校からは本格的にクラシックの世界へ。名古屋の芸術大学に通い、ホルン奏者として仕事もしてきた彼女。厳しいプロの世界から一線退いてからはヘルパー資格を取得、障害福祉の世界で働き始めました。仕事の中で大切にしていることは、利用者さんへの敬意を忘れないこと。「私と話をすることで、利用者さんが安心して暮らそうような存在になりたい」と語ります。

編集後記

趣味はクラシック鑑賞と登山。雪渓の雪を食べて水の有難さを感じ、燕岳で見た雷鳥に感動しました。事業所で書道の講師もする多彩な才能の持ち主です。

樹岡 優一 (ま) サンリット

入社して8年目。主に夜勤業務でユニオンの支援に携わります。「自分に与えられた仕事をやる」をモットーに、常時見守りが必要な利用者さん対応の夜中の部分を担うなど、生活支援を陰ながら支える存在です。ユニオンに来る前は、製造業に長年勤めてきました。「人間相手の仕事は、製造業と違って人から感謝される仕事。利用者さんからの「ありがとう」の言葉が有り難く感じる」と言います。趣味は家族と行く温泉旅行。温泉の成分などを見ながらお土産を買うのが好きだそう。刀や甲冑を見るのも好きで、年代によって刀の形が違うのだと教えてくれました。(原・野崎)

▼熊本地震後、あるCMが再注目されている。それは五年前、鹿児島中央から博多までの九州新幹線全線開業を祝ったもの。走行する新幹線へ地域住民が思い思いにアピールする姿、開通を喜ぶ姿を延々と撮影した。▼開業が東日本大震災の翌日、放映はわずか3日。しかし、ネットの動画サイトで広まり「故郷と重なる」、東北の被災地では「九州の方の笑顔で元気がもたらされた」と話題に。▼九州から遠方、東北まで笑顔を運んだCMが伝えたもの、それは、日常生活に少しの工夫を加えると、気持ちを前向きに、笑顔にできる可能性なのかもしれない。▼我々が目指すもの、それは利用者さんが前向きな気持ちで、ニコニコ過ごしてもらおうこと。このCMと支援、一見繋がりはないと思われるが、放映して示された本質は同じものかもしれない。(T)